令和元年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立台原中学校　教諭　後藤　展朗

１　派遣期日　　令和元年６月２７日（木）

２　研 修 先　　学校名（会場名）　茨城大学教育学部付属中学校
所在地　　茨城県水戸市文京１－３－３２
http://www.jsch.ibaraki.ac.jp/index.html

３　研修内容

（１）視察校における研究主題

研究主題：社会を創る自立した生徒の育成（１年次） ～授業づくりの実践及び教育課程の工夫・改善を通して～

（２）研究概要

研究主題である「社会を創る自立した生徒の育成」は，文部科学省が「変化の激しいこれからの社会を生きていくために必要な資質・能力の総称」と位置付ける「生きる力」と深く結びついているものである。これからの社会の様相は，情報化の急速な進展，グローバル化の進行など，先行き不透明で予測困難であることは言うまでもない。そのような時代の到来に備えて，一人一人が社会の創り手となるべく，自立した生徒を育んでいくという目標を掲げている。以下が研究の手立てである。

＜研究の手立て＞

Ⅰ　一人一人の自立を促す学び
①系統性や他教科との関連性，単元や時間のまとまりを重視した学びのデザイン
②思いや考えを深め合うコミュニケーション活動の工夫

Ⅱ　社会への参画・貢献を促す学び
①人的・物的学習環境の整備

Ⅲ　内省（自己探求・自己更新）を促す学び
①自己肯定感を育む支援体制の整備
②自己の「よさ」や「らしさ」を見つけるワークシートの工夫

（３）保健体育における研究への取組

保健体育科において目指す生徒の姿は，「運動やスポーツについて幅広く考え，「する」「みる」「支える」「知る」の多様な関わりを実践する生徒」，「保健体育科の「見方・考え方」を働かせ，豊かなスポーツライフを実現する基礎を身に付けた生徒」としている。保健体育科では，「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」とは，保健体育科の「見方・考え方」を働かせて，自他の課題を発見し，解決に向けて考え，それを仲間に伝えることと捉えている。また，「他者との関わりを大切にすること」とは，単に技能の向上だけを求めているのではなく，豊かなスポーツライフを実現する基礎を身に付けるという広い意味である。

一単元の中で「する」「みる」「支える」「知る」等の多様な関わりを設定していくことで，個人同士の関わりで終わるのではなく，クラスとしての協同的に学び合う力が付き，やがて学年や学校全体の力も向上する。なお，ここで述べるクラスとしての協同的な学びとは，各グループの良さを共有したり，他のクラスの活動を参考にしたり，自分たちの学びを創造したりしていくために，チームの活動をさらに学級や学年に広げていく学びのことを意味している。

①公開授業参観　２年保健体育「がんの予防」

公開授業では，がんについて生徒と会話をしたり，資料を見て調べたりしながら授業が行われていた。がんモデルを使った説明などがあり，視覚的に捉えやすく，全員が興味をもって活動していた。ワークシートには，多くの記述が書かれてあり，十分な情

報収集や話し合い活動が行われていた。このことから，生徒の思考を整理する活動が重要であると感じた。各々の役割分担が徹底されており，調べ学習や話し合い活動に見通しをもって取り組むことができていた。それぞれの班で違う課題について話し合いが行われていて，授業のまとめで代表者がまとまった意見を発表してクラスで共有することができていた。

＜研究テーマにせまる手立て＞

Ⅰ　小学校で学習した内容やグローバル市民科で学習した内容を生かして授業が行われていた。セルフワーク・グループワーク・クラスワークと三段階活動していて，豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成につながると感じた。

Ⅱ　大学教員などと連携して授業づくりや研究を進めていて，専門的な意見をもらいながら授業が行われていた。

Ⅲ　ワークシートは自由記述の欄が多く，絵や図などを使いながら相手に分かりやすくまとめられるように工夫されていた。

②分科会

・　がんモデルを床にぶつけて光らせていたのはなぜか。

→　細胞に刺激を与えることでがんになるということを視覚的に確認するため。

・　調べ学習では，他教科の教科書（社会）の教科書を活用して調べている生徒がいて素晴らしかった。

→　各教科で連携した授業をしているので，既習事項を使って調べられる生徒が多い。

・　授業の雰囲気がすばらしかった。

→　日頃の授業から生徒とのコミュニケーションを大事にしている。

（４）大学教授との授業づくり　＜講師：篠田　明音　氏（茨城大学）＞

賢い身体を育む「体つくり運動」を考える

○賢い「からだ」

・実践によってわかることは，自らの「からだ」によって分かることであり，それは物・人間とのやり取りを具体的に了解すること。

・何らかの運動課題を解決するという実践的状況では，知識の量やそれと相関的な頭の良さでは，その課題は解決できないということ。

・「からだ」の賢さとは，具体的で実践的な世界での問題解決能力です。「感じ」による身体的思考がその賢さを左右しています。

○活動内容

・ジャンケンぐるぐる　・ブラインドウォーク　・２人鬼ごっこ　・人間知恵の輪

・変形ポートボール

４　感想

他者との関わりを大切にした深い学びを通して，変化の激しいこれからの社会を生きていくために，自立した生徒を育成することは，必要なことである。そのことを改めて確認し，授業改善を図る上で，有意義な研修となった。生徒が興味・関心をもち，自らが主体的に取り組むことが最も重要だと感じた。今回の授業参観では，グループ内で，生徒それぞれが意欲的に調べ学習する場面や生徒同士が意見を発表し合う場面が多く見られた。教師が生徒の学習活動に対してサポートを行うことで，生徒の気付きを大切にしていく授業が展開されていた。効果的な課題設定や授業展開を目指し，今後も研修を重ねていきたい。